

## 感染症流行予測調査（平成20年度）

藤井理津志，濱野雅子，葛谷光隆，野田邦広\*（ウイルス科）

\*保健福祉部健康対策課

【資 料】

## 感染症流行予測調査（平成20年度）

Surveillance of Polio in Okayama Prefecture (2008-2009)

藤井理津志, 濱野雅子, 葛谷光隆, 野田邦広\* (ウイルス科)

\*保健福祉部健康対策課

Ritsushi Fujii, Masako Hamano, Mitsutaka Kuzuya and Kunihiro Noda

[キーワード：感染症, サーベイランス, ポリオウイルス]

[Key words : Infectious disease, Surveillance, Polio virus]

### 1 はじめに

本調査は厚生労働省委託事業の感染症流行予測調査の一環として行われている。本年度、岡山県ではポリオの感染源調査を実施したので、その結果について報告する。

### 2 材料及び方法

感染症流行予測調査実施要領(平成20年度)及び伝染病流行予測検査術式(平成7年度)<sup>1)</sup>に従って実施した。

岡山市内のN保育園の健康な園児60人(0～1歳20人, 2～3歳20人, 4～6歳20人)から、ポリオ生ワクチン投与後2ヶ月以上経過した平成20年7月28日～8月7日の期間に糞便を採取し、FL細胞を用いてポリオウイルスの分離を行った。

### 3 結果及び考察

表1に年齢群別ポリオ及びその他のウイルス分離成績を示す。ポリオウイルスの分離はすべて陰性であった。その他のウイルスとしてエコーウイルス30型(E30)8株(1歳児5人, 2歳児1人, 6歳児2人), アデノウイルス2型(AD2)1株(0歳児1人), 及びアデノウイルス6型(AD6)1株(1歳児1人)が分離された。

E30は岡山県内の感染症発生動向調査(平成20年度)で

表1 年齢群別ポリオ及びその他のウイルス分離成績

年齢群 (歳)	検体数	ウイルス分離				合計
		ポリオ	E30	AD2	AD6	
0～1	20	0	5	1	1	7
2～3	20	0	1	0	0	1
4～6	20	0	2	0	0	2
合計	60	0	8	1	1	10

は6月～9月に1株ずつ分離され、エンテロウイルスの中では最も多く分離された。全国的(平成20年度)にも6月～10月に多く検出され、エコーウイルスの中では最も報告数が多かった<sup>2)</sup>。全国的な分離状況を考えると、本県にも6月～10月頃に本ウイルスの広範な浸淫があった可能性が高いと考えられる。

AD2は岡山県内の感染症発生動向調査では5, 7, 12, 1月に合計6株分離され、アデノウイルスの中では最も多く分離された。全国的(平成20年度)にも季節的な偏りはなく検出され、アデノウイルスの中では最も報告数が多かった<sup>2)</sup>。全国的な分離状況を考えると、本県にも年度を通じた本ウイルスの広範な浸淫があった可能性が高いと考えられる。

AD6は岡山県内の感染症発生動向調査では5月に1株分離されたのみであったが、全国的(平成20年度)には年度を通じて分離され、アデノウイルスの中ではアデノウイルス2型, 3型, 1型, 5型, 40/41型, 37型, 41型について8番目に報告数が多かった<sup>2)</sup>。全国的な分離状況を考えると、本県にも5月頃を中心として本ウイルスの浸淫があった可能性が高いと考えられる。

### 文 献

- 1) 厚生省保健医療局エイズ結核感染症課・国立予防衛生研究所流行予測事業委員会：伝染病流行予測検査術式, 1995
- 2) 国立感染症研究所, 厚生労働省健康局, 結核感染症課：病原微生物検出情報, Vol.30, No.4, 115, 2009